医療倫理学

責任者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 林 研 准教授				
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野				
担 当 教 員	林 研 准教授				
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	8コマ	16時間
期 間	前期		演習	0コマ	0時間
			実習	0コマ	0時間

・学修方針（講義概要等）

現代医学の発展はめざましく、病気や障害に悩む多くの人々に福音をもたらしている。しかし他方では、延命治療技術の進歩によって安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療、遺伝子診断などの先端医療技術は新たな倫理的問題も生み出している。

本講義では、将来の医療人を目指す受講生が、こうした倫理的課題について深く理解し、広い視野から問題を考察するための基礎力養成を目指す。

・教育成果（アウトカム）

現代医療が直面している倫理的問題点を理解し、対立する諸見解を各自の観点から整理する作業を通じて、自分の立場を明確にすることができるようになる。（ディプロマポリシー：1、2、4、5、6）

・到達目標（SBO）

- 1.医療者－患者関係、終末期医療、生殖医療、移植医療、動物実験等の現状を理解し、どのような点が倫理的に問題になっているかを説明することができる。
- 2.安楽死は許されるか、脳死は人の死か、代理出産を認めることはできるか等の問題について、提起された諸見解を整理し、日本の現状に即して、自分の見通しを述べるることができる。

・ 講義日程
【講義】

(矢) 東 1-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
5/28	水	3	哲学分野	林 研 准教授	<p>生命倫理とは何か 1.生命倫理の歴史と原則、重要概念を説明することができる。</p> <p>事前学修：教科書の10、18、20章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
6/2	月	3	哲学分野	林 研 准教授	<p>患者の自己決定権 1.患者の自己決定権とは何かを説明することができる。 2.自己決定をめぐる倫理的問題を指摘することができる。</p> <p>事前学修：教科書の16章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
6/9	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>安楽死 1.安楽死の現状を説明することができる。 2.安楽死の倫理的問題点を指摘することができる。</p> <p>事前学修：教科書の14、15章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
6/16	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>生殖補助医療 1.生殖補助医療の現状について説明することができる。 2.生殖補助医療の倫理的問題点を指摘できる。</p> <p>事前学修：教科書の5章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
6/23	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>脳死と臓器移植 1.移植医療の現状を説明することができる。 2.移植医療の倫理的問題点を指摘することができる。</p>

					<p>事前学修：教科書の 11 章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
6/30	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>人工妊娠中絶 1.人工妊娠中絶の現状について説明することができる。 2.人工妊娠中絶の倫理的問題を指摘することができる。</p> <p>事前学修：教科書の 6、7 章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
7/7	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>動物実験の倫理 1.動物実験の現状を説明することができる。 2.動物実験の問題点を指摘することができる。</p> <p>事前学修：教科書の 21 章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>
7/14	月	2	哲学分野	林 研 准教授	<p>人権と生命倫理 1.人権とは何か、医療において人権が問題になるのはどんな場面かを説明することができる。</p> <p>事前学修：教科書の 4、27 章に目を通し、疑問点を箇条書きにする。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明 他 編著	教育出版	2016
推	生命倫理学入門 [第 5 版]	今井道夫	産業図書	2024
推	入門・医療倫理 I [改訂版]	赤林朗 編	勁草書房	2017

・ 成績評価方法

【総括的評価】 平常点 20%（受講態度/課題提出など）＋定期試験 80%
【形式的評価】 講義毎の提出物等で理解度を確認し、フィードバックする。

・ 特記事項・その他

本講義では、講義内容の理解を深めるため、毎回受講生に課題を出し、関連するテーマについて各自の考えをまとめてもらう。また講義についての疑問点等がある場合は、合わせて記載し、提出してもらう。課題の内容や疑問点の内容については、次回の講義の中で適宜とりあげ、解説を行う。また、試験の結果については、講評および全体的に理解度の低かったポイントに関する解説を WebClass に掲載する。課題や試験の評価については、成績確定後に希望者に開示する。

なお、教科書を用いて、事前事後学修を行うこと。事前事後学修は毎回同じ作業であり、各回 120 分程度の時間を要する。また、定期試験に向けての総復習には 13 時間程度の学修時間を要する。形式的評価として、上記のように講義毎の提出物等で理解度を確認し、フィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン（ThinkPad E14Gen5）	1	講義プレゼンテーション
講義	デスクトップパソコン（Mac mini MMFJ3J/A）	1	講義資料作成、他